

信大ガイダンス・オープンキャンパスに参加しました!

男女共同参画推進センターの取組みを多くの方に知っていただくため、模擬講義の実施およびパネル展示(センターの概要・本学的女子学生比率、女性教員比率・研究補助者等の対談)を行いました。

7月15日(土)松本キャンパスでの オープンキャンパスで模擬講義を実施

理学部・中島美帆准教授による模擬講義「キャリアデザイン入門～その進路、自分で選んだものですか?」を開催し、多くの高校生や保護者が参加しました。様々な統計データを使いながら授業は進み、自身の進路が、家族の発言や周囲の環境によって影響を受けている可能性について考える時間となりました。



工学部ではガールズセミナー においてパネル展示を実施



パネル展示のひとつとして、研究補助者制度を利用する教員と補助者として関わった学生の対談を行いました。(以下、一部抜粋)

Q. どんな作業をされましたか?

A. 研究のデータを入力したり、研究に必要な情報収集を主にインターネットで行いました。あとは、研究に必要な教材のためのデータ入力をしました。パソコンを使うにしても、普段は使わないような機能も勉強しましたね。

Q. 普通の授業とは違う学びがありましたか?

A. 普通の講義では教えてもらうだけなので、手伝ったりすることで、先生の仕事や研究を知ることができました。

Q. 将来のお仕事選びやイメージに影響はありましたか?

A. 先生はこどもさんが2人いても教員として補助者を利用しながら働いているので、そういう働き方もあるんだなあと思いました。

平成29年度 男女共同参画講義を終えて

(前期)共通教育「キャリアビジョンと男女共同参画：誰もが輝く社会を考える」が全15回の講義を終え、最終日には学生たちの関心の高かったテーマにわかれ、グループ発表をしました。毎回熱心に授業に耳を傾ける学生の姿が印象的で、この講義を通して学生が自身のジェンダーバイアスに気付き、男女共同参画に対する考え方が少しずつ変化するのを感じました。



この男女共同参画講義全体を通して私が最も変化したと感じることは日常生活の中で男女共同参画に関する問題について敏感になり考えるようになったということである。この講義を受けている友達とはもちろん、受けていない友達にもいろいろな場面で男女平等について話すようになった。授業内で平等とは何か、人権とは何かというところから始まり、実際に存在する問題について学び、それを解決するにはどうすればいいのか考えることは自分自身の成長に繋がったし、とても有意義だったと思う。この講義で考えたことを自分の心の中にとどめておくのではなく、積極的に外に発信し少しでも私のように学びを深める人の増加や、男女共同参画に関する問題の解決に貢献したいと考えた。(信州大学医学部1年S.Nさん)

■長野県 第2期「社員の子育て応援宣言！」に登録しました。

本学は、長野県が実施している「社員の子育て応援宣言」に平成29年5月1日付で第2期の登録申請を行い、このたび、子育て応援企業として認定されました。宣言内容は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/2017/06/29kosodateouen.html>

■平成29年度（10-3月期）研究補助者制度の利用者が決定しました

本学の研究者が育児や介護等のライフイベントと研究活動を両立できるよう、平成29年度(10-3月期)も研究補助者制度の利用希望者を募集し、厳正な審査の上、利用者を決定しました。

●選考結果●

利用者 14名
(男性1名、女性13名)

■育児・介護のためのガイドブック～制度と使い方～の改訂版を発行しました

働きながら子育てや介護を行う教職員の仕事と育児・介護の両立を支援することを目的に、学内の制度や規程のポイントを紹介した「育児・介護のためのガイドブック～制度と使い方～」の改訂版を作成し、本学の教職員全員に配付しました。このガイドブックが教職員のみなさまのワークライフバランスのために有効に活用いただければ幸いです。また男女共同参画推進センターのウェブサイトにも公開しています。



■メンターのプロフィール一覧を作成しました

平成29年10月1日現在8名のメンターが委嘱されていますが、より相談しやすくするためにメンターのプロフィール紹介をしています。詳しくは男女共同参画推進センターのウェブサイトをご覧ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/concerned/index.html> (関係者向け情報)



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

先日夏休みを頂き、実家の沖縄へ帰省しました。長女と長男は10日ほど早く沖縄入りし、じじとばばに面倒をみてもらい沖縄生活を満喫、久々の再会に多少は寂しがっていたかと思いきや「まだ沖縄にいたいから、ママ先に日本に帰っていいよ」とのこと。そんな台詞に2人の成長を感じた2017年の夏でした。普段は同居している夫の両親にお迎えを手伝って頂き、夕方慌ただしい時間をお任せすることも多いため、夫も揃って子どもと過ごせる時間は短いです。そんな私が育児に関してこだわっていることは、料理です。朝から汁物果物にいたるまで、てんこ盛りの一汁4～5菜を出します。(量も多いので子どもには不評です)そのおかげか、3



加藤 沢子 先生 | 小児科 卒後臨床研修センター



家族構成

夫、長女9歳、長男6歳、次女3歳

お子様からの呼ばれ方

ママ(ママと呼ばれたかったの)

歳の次女もゴーヤ・ピーマン・春菊からミョウガ・ネギ・パクチーの香味野菜に至るまでばくばく食べられるようになりました。しかしこれには弊害がひとつあり、子どもたちは最近、「食後には必ず果物がでてくるもの」と思いこんでいるふしがあります。しかも「カット済み・フォークを添えて」出さないと文句が出ます。ちょっと面倒くさいのですが、彼らが一人暮らしをする日まで続けてあげたいと思っています。



今回はこの方!

柴崎 拓実 先生

医学教育研究センター 助教(診療) 医学部小児医学教室

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒380-8544
長野市西長野 6-0
内線 831-4018

工学部分室
〒380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部分室
〒399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5358

スフレ

信州大学 スフレ

検索

